

2019 年度 精神分析入門セミナーのご案内

主催：大阪対象関係論研究会

このセミナーは、臨床実践をしている方、あるいは臨床を学んでいる大学院生が対象です。そして比較的少人数のグループで行なうことで、集中的に精神分析理論や精神医学、そして臨床実践を学ぶことを目指しています。目的にかなうよう、精神分析概念・精神医学・臨床のトピックを採り上げていく予定にしています。自らの臨床をリフレッシュしたい、精神分析的心理療法を学びたい、あるいは精神医学的知識を身につけたい、と思っていられる方がこの参加をお待ちしています。

なお、このセミナーは 2 年間で 1 クールとなっており、2019 年度はその 2 年目にあたりますが、2 年目からのご参加も可能です。

記

1. 開講日：毎月第 4 土曜日、午後 4 時より 7 時 30 分まで。都合により、前後の週に変更することがあります。
2. 会場：上本町精神療法オフィス（予定）
3. 講師：
館 直彦
（たちメンタルクリニック、大阪市立大学大学院、精神科医、臨床心理士、
日本精神分析学会認定スーパーヴァイザー）
増尾徳行（ひょうごこころの医療センター、臨床心理士、
日本精神分析学会認定心理療法士）
その他、必要に応じて講師を招く予定でいます。
4. 参加資格：医学・心理学・社会福祉などを大学・大学院で学んでいるか、現在実践されている方。
5. 参加費：年間 50,000 円（昨年度より 2 年度にわたって参加される方は、割引があります。）
6. 申し込み：objectrelations.osaka@gmail.com（担当：川崎）までメールにて、お申し込みください。申し込みの締め切りを 2019 年 4 月 7 日とし、先着順に受け付けます。申し込み者が 20 名に達した場合、締め切り前でも受け付けを終了します。参加希望者が 8 名未満のときは、開催しない場合があります。その際は、4 月 15 日ごろに連絡します。ご不明な点がございましたら、上記メールアドレス宛てにご照会ください。

7. 概要：各回は、ゼミナールと事例検討の2本立てとします。前半90分はゼミナール形式です。精神分析・精神医学・臨床のテーマについて、各月に担当者を設けます。担当者は月ごとのテーマについて、まとめてきてください。講師が助言やコメントをします。15分休憩ののち、後半105分で事例検討を行ないます。こちらも、各月に事例提供者を設けます。引き続き講師が、助言やコメントをします。
- 2年間で全20回です。8月・12月は休講とします。各回は独立しており、第2年度からの参加も可能です。

【年間スケジュール（2年間、全20回）】

2018年

〔第1年度：主に精神分析〕

- 4月28日 無意識
- 5月26日 アセスメント
- 6月23日 夢理論
- 7月28日 治療者-患者関係
- 9月22日 内的世界
- 10月27日 プレイセラピー
- 11月17日 転移-逆転移（分析学会と重なるため、第3週に開催）

2019年

- 1月26日 ワークスルーと終結
- 2月23日 抵抗
- 3月23日 精神分析におけるパーソナリティ

〔第2年度：主に力動精神医学〕

- 4月27日 自閉症スペクトラム障害
- 5月25日 セッティング
- 6月22日 神経症
- 7月27日 解釈
- 9月28日 パーソナリティ障害
- 10月26日 マネージメント
- 11月30日 気分障害（祝日と重なるため、第5週に変更）

2020年

- 1月25日 サイコセラピー以外の治療的介入
- 2月22日 精神病
- 3月28日 セラピーとは？

文献リスト

1. 馬場禮子(2016): (改訂) 精神分析的な人格理論の基礎—心理療法を始める前に. 岩崎学術出版社, 東京.
2. Bateman, A. and Holmes, J. (1995): *Introduction to Psychoanalysis: Contemporary Theory and Practice*. London: Routledge. 館直彦 (監訳) (2010): 臨床家のための精神分析入門—今日の理論と実践. 岩崎学術出版社, 東京.
3. Bollas, C. (1987): *The Shadow of the Object: Psychoanalysis of the Unthought Known*. New York: Columbia University Press. 館直彦 (監訳) (2009): 対象の影—対象関係論の最前線. 岩崎学術出版社, 東京.
4. Bollas, C. (2015): *When the Sun Bursts: The Enigma of Schizophrenia*. New Haven: Yale University Press. 館直彦 (監訳) (2017): 太陽が破裂するとき—統合失調症の謎. 創元社, 大阪.
5. Coltart, N. (1993): *How to Survive as a Psychotherapist*. London: Sheldon. 館直彦 (監訳) (2007): 精神療法家として生き残ること—精神分析的な精神療法の実践. 岩崎学術出版社, 東京.
6. Freud, S. (1895): Studies on Hysteria. In *SE II*. London: Hogarth. 新宮ら (監訳) (2008): ヒステリー研究 フロイト全集 2. 岩波書店, 東京.
7. Freud, S. (1900): The Interpretation of Dreams, In *SE IV, V*. London: Hogarth. 新宮ら (監訳) (2007): 夢解釈 1, 2 フロイト全集 4, 5. 岩波書店, 東京.
8. Freud, S. (1905): Fragments of an analysis of a case of hysteria. In *SE VII*. London: Hogarth. 新宮ら (監訳) (20): 症例「ドーラ」 フロイト全集 6. 岩波書店, 東京.
9. Freud, S. (1909): Analysis of a phobia in a five-year-old boy. In *SE X*. London: Hogarth. 新宮ら (監訳) (2008): 症例「ハンス」 フロイト全集 10. 岩波書店, 東京.
10. Freud, S. (1911): Psycho-analytic notes on an autobiographical account of a case of paranoia. In *SE XII*. London: Hogarth. 新宮ら (監訳) (2009): 症例「シュレーバー」 フロイト全集 11. 岩波書店, 東京.
11. Freud, S. (1918): From the history of an infantile neurosis. In *SE XVII*. London: Hogarth. 新宮ら (監訳) (2010): 症例「狼男」 フロイト全集 14. 岩波書店, 東京.
12. Freud, S. (1955): A Page of Freud's Original Record of the 'Rat Man' Case. In *SE X*. London: Hogarth. 北山修 (監訳) (2006): 「ねずみ男」精神分析の記録. 人文書院, 京都.
13. Gabbard, G.O. (2010): *Long-Term Psychodynamic Psychotherapy: A Basic Text, 2nd Edition*. Washington DC: American Psychiatric Publishing. 狩野力八郎 (監訳) (2012): 精神力動的な精神療法—基本テキスト. 岩崎学術出版社, 東京.
14. 狩野力八郎(2002): 重症人格障害の臨床研究—パーソナリティの病理と治療技法. 金剛出版, 東京.
15. Klein, M. (1961): *Narrative of A Child Analysis*. London: Hogarth. 山上千鶴子 (訳) (1987): 児童分析の記録 1, 2 メラニー・クライン著作集 6, 7. 誠信書房, 東京.
16. McWilliams, N. (1994): *Psychoanalytic Diagnosis: Understanding Personality Structure in the*

- Clinical Process*. New York: Guilford. 成田善弘（監訳）（2005）: パーソナリティ障害の診断と治療. 創元社, 大阪.
17. 西丸甫夫, 西丸四方(2008): やさしい精神医学（改訂5版）. 南山堂, 東京.
 18. Sandler, J., Dare, C., and Holder, A. (1992): *The Patient and the Analyst: The Basis of Psychoanalytic Process*, 2nd Edition. London: Karnac. 藤山直樹（監訳）（2008）: 患者と分析者（第2版）—精神分析の基礎知識. 誠信書房, 東京.
 19. 館直彦(2013): ウィニコットを学ぶ—対話することと創造すること. 岩崎学術出版社, 東京.
 20. 滝川一廣(2017): 子どものための精神医学. 医学書院, 東京.
 21. Winnicott, D.W. (1958): *Collected Papers: Through Paediatrics to Psycho-Analysis*. London: Hogarth. 北山修（監訳）（2005）: 小児医学から精神分析へ—ウィニコット臨床論文集. 岩崎学術出版社, 東京.
 22. Winnicott, D.W. (1965): *The Maturation Processes and the Facilitating Environment: Studies in the Theory of Emotional Development*. London: Maresfield Library. 牛島定信（訳）（1977）: 情緒発達の精神分析理論—自我の芽生えと母なるもの. 岩崎学術出版社, 東京.
 23. Winnicott, D.W. (1971): *Therapeutic Consultations in Child Psychiatry*. London: Hogarth. 橋本雅雄, 大矢泰士（訳）（2011）: 新版 子どもの治療相談面接. 岩崎学術出版社, 東京.
 24. Winnicott, D.W. (1971): *Playing and Reality*. London: Routledge. 橋本雅雄, 大矢泰士（訳）（2015）: 改訳 遊ぶことと現実. 岩崎学術出版社, 東京.
 25. Winnicott, D.W. (1989): *The Piggle: An Account of the Psychoanalytic Treatment of a Little Girl*. Connecticut: International Universities Press. 妙木浩之（監訳）（2015）: ピグルーある少女の精神分析的治療の記録. 金剛出版, 東京.